

東日本大震災5周年シンポジウム企画『IRIDeS のこれまでの歩みと未来に向けて』を開催しました(2016/3/13)

テーマ：東日本大震災5周年、災害科学国際研究所

場所：災害科学国際研究所 1 階多目的ホール

2016年3月13日(日)午後、災害科学国際研究所(IRIDeS)では東日本大震災5周年シンポジウム『IRIDeS のこれまでの歩みと未来に向けて』を開催し、企業、自治体、大学／研究機関の関係者、一般参加者など総勢150名以上の参加を頂きました。シンポジウムは、今村文彦所長・教授からの挨拶、村尾 修教授(地域・都市再生研究部門)の趣旨説明に続き、二部構成で行われました。第一部「IRIDeS のこれまでの歩み」では、まず伊藤 潔教授(災害医学研究部門)から「IRIDeS の活動の経緯」と題して、災害科学国際研究所の4年間の活動の軌跡を概観しました。続いて、主なプロジェクト3件が紹介されました。柴山明寛准教授(情報管理・社会連携部門)からは「災害アーカイブの5年間のあゆみと今後の展開について」、富田博秋教授(災害医学研究部門)からは「東日本大震災被災地のメンタルヘルスの現状と今後の展望」、越村俊一教授(災害リスク研究部門)からは「リアルタイムシミュレーションとG空間情報の活用による津波被害の即時推定」について発表が行われました。

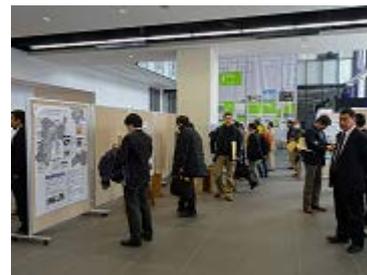
第二部「IRIDeS の未来に向けて」では、奥村 誠副所長・教授(人間・社会対応研究部門)から「IRIDeS の事業計画と今後の体制」について説明が行われ、続いて「近年の巨大災害調査および国際活動報告」に関して4件の活動が紹介されました。呉 修一助教(災害リスク研究部門)と松本行真准教授(リーディング大学院)から「フィリピン台風ハイエンおよび平成27年9月関東・東北豪雨への対応」について、江川新一教授(災害医学研究部門)から「ネパール地震緊急調査の意義」、桜井愛子准教授(情報管理・社会連携部門)から「海外被災地における教育復興と防災教育」、小野裕一教授(情報管理・社会連携部門)から「災害統計グローバルセンターの活動の進捗状況について」、それぞれ発表が行われました。最後に、丸谷浩明教授(人間・社会対応研究部門)から「IRIDeS の今後の展開：国連防災世界会議」について報告が行われ、奥村 誠副所長による閉会挨拶とともにシンポジウムは終了いたしました。シンポジウムとともに常設展示、特設展示コーナー、EVの展示を通じて、広くIRIDeSの活動を紹介する良い機会となりました。なお、当日発表の資料は、HPに公開する予定です。



今村文彦所長



会場の様子



特設展示 エントランスホール



常設展示 (2 階)



特設展示 1 階



文責：桜井 愛子 (情報管理・社会連携部門)

写真：マス エリック (災害リスク研究部門)